



毎年、この季節になると楽しみにしているのが運動会。

あ、別に僕が跳んだり走ったりするわけではないですよ。(^^)/

例年であれば、今頃は近所の小学校や幼稚園・保育園から流れてくる、運動会の練習の音楽や先生たちのハンドスピーカーからの声や子供たちの元気な声が聞こえるのですが、今年は運動会の規模を縮小したり、大声を出さないように練習していたりするせいか、あまり聞こえてきません。

それに運動会当日も、保護者以外の観覧ができないよう来場者を制限する所が多いようです。

新型コロナの感染防止対策なのでしょうがありません。でも、やっぱり今年の秋は少し寂しい秋です。。

以前、この春大学に入学したばかりの息子を持つ友人に、「息子さん入学おめでとう」って声をかけたら渋い顔で「通信教育やけどな。」って言ってました。なんでも大阪から京都の大学に行って一人暮らしを始めたものの殆ど大学に通うことがなく、下宿先からのネットを使った授業ばかりとのこと。新型コロナで仕事が大変な中、入学金や授業料、一人暮らしの家賃等を負担する親の立場としては、授業料も安くならないし釈然としない思いがあったようです。



吉本新喜劇で活躍された岡八朗さんの「かかってこんかい。～(略)～通信教育やけどな。」(注)のギャグとは違って、友人の一言は重くて笑えませんでした。

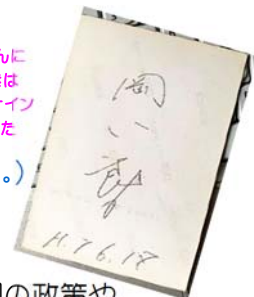
※(注) 新喜劇で悪役に立ち向かっていくときの岡八朗さんのギャグ。

「かかってこんかい！言うとかけど、こう見えてオレは空手やっつるんや。」

一瞬怯む相手に、「通信教育やけどな。」(ドヒャーッと舞台全員がずっこけて場内爆笑。)

ちなみに僕も小学生の時ふざけてヘッピー腰になって真似してました。(^^;)

岡八朗さんに
会ったときは
嬉しくてサイン
もらいました



ようやく9月から対面授業とWeb授業を組み合わせた授業が始まるそうですが、日頃、国の政策や企業の姿勢に辛口で評論している大学の先生方は、授業料の見直し等、目立った策を取らない大学の姿勢についてどう思っているのでしょうか。

高杉晋作ら幕末の志士を多く輩出した吉田松陰は、松下村塾において、

「**学者になってはならぬ。人は実行が第一である。**」と学問の心得を説いたといえます。

「子どもは国の宝」とはいいますが、原石も磨かねば宝石にはなりません。

Web受講は仕方ないのですが、子どもたちには、志を持つことを忘れずにいてほしいと願っています。

おもしろき
ことのない世を
おもしろく
晋作



さて、9月20日、内閣府は少子化対策の一環として、新婚世帯の家賃や敷金・礼金、引っ越し代など新生活にかかる費用について、来年度から60万円を上限に補助する方針を固めました。「結婚新生活支援事業」を実施する市区町村に限られるようですが、経済的理由で結婚を諦めることがないよう後押しする狙いです。結婚を考えている人の背中をちょっとでも押ししてくれるキッカケになるといいと思います。だって結婚には、勢いも必要ですからね。(^^)-☆



宮崎駿監督は、「子どもたちに『この世は生きるに値するんだ』ということ伝えるのが自分たちの仕事の根幹になればいけない」と思ってきた。それはいまも変わらない。」と引退会見で語りました。

まだまだ感染拡大防止の為に不自由は続きますし、経済の立て直しもこれからです。

でも、子どもたちに「この世は生きるに値する」ことを教えるのは、僕たち大人たちの役目。

感染拡大防止対策をしっかりと続けながら、気合い入れて言ってみませんか。

「新型コロナ、かかってこんかい！」ってね。



通信教育
やけどな。